

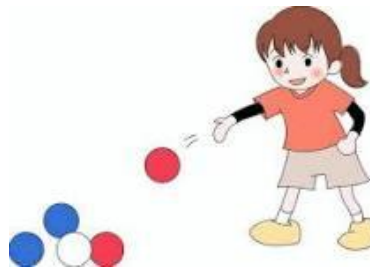
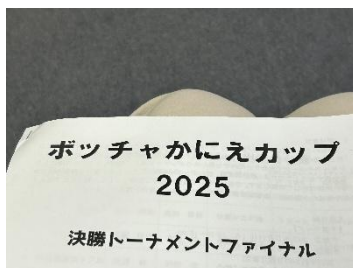
ボッチャで地域のきずなを！

8月に「ボッチャかにえカップ 2025」の決勝戦がありました。アジアパラ競技大会の種目にもなっている「ボッチャ」。高齢者でも、障がいがあっても、健常者でも対等に試合ができるものでした。これを地域に広めて、絆をつくっていきましょう！という動きがあります。そのためのワークショップをお手伝いしました。

☆ボッチャは

パラリンピックの公式種目となっていて、「上から投げてでも下から投げてでも、あるいは蹴ってもいい。ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。（<https://www.japan-boccia.com/about/>）」というものです。障がいの程度により、いくつかのクラスに分かれて行われるようです。

かにえカップ 2025 の決勝戦を見学に行き、そこで体験もさせていただきました。ただ、ボールを投げるだけ？と思っていたのですが、試合を見ていると、とても戦略的！で、頭を使う競技でした。



☆ワークショップで参加意欲を醸成する

この企画をしたのは、社会福祉協議会さんでした。まずは、高齢者の方から始めて、多世代に広げてきたい。そのためには、体験して楽しさを知った方々に参加意欲を持っていただいて、自ら企画運営してくださると、大会は、もっと楽しく、きずなもできていくのでは？そう考えて、ワークショップを行いました。

今年度は、2回実施しました。コンセプトと5年先までの目標（年表）をつくって、無理せずに少しずつ進めていこう！と。

☆参加した方の反応は

みなさん、前向きで、「ボッチャかにえカップ 2026」をやりたい！孫と一緒にやったら楽しそう！もぐもぐタイムもつくりたい！のような意見がでました。そして、一緒に会場へ行く程度なら、送迎やるよ！景品だすよ！審判やりたいから勉強会をしよう！など選手として参加するだけではなく、運営の方にも積極的に手を挙げていただきました。

*大学生さんや、ボッチャのゴールドパートナーのかんぽ生命さんも参加してくださって、暖かい雰囲気で、盛り上げていこう！というムードが高まりました。